



春季観音大祭 紫燈護摩（火渡り修行）

観音

平成21年 3 月
第43号

発行
広島県安芸郡府中町
茂陰2丁目2-8-4
真言宗 正観寺
小 出 真 行 弘

体^{たい}あるものは、まさに心^{しん}識^{しき}を含み、

心^{こころ}あるものは必ず仏^{ぶつ}性^{じょう}を具^{そな}す。

身体のあるもの、形のあるものは、動物植物鉱物に至るまで、心の働きをちゃんともっている。その心をもっているものは、必ず仏様と成ることのできる美しい性質、立派な本性^{ほんしつ}（仏性）をもっている。

拾遺^{しゆい}雜集^{ざしゅう}

合掌のかたちにつぼむ蓮^{はちす}かな

手は、そのしぐさで人のさまざまな表情や状態をあらわします。暇なときは「手が空き」、忙しいときは「手が離せない」。悪いことをすれば「手がうしろに回り」、高級車には「手が届かない」のに、五十歳にはもう「手が届く」。手を「貸したり借りたり」、手を「揉んで」愛想笑いしたり、その手のひらを「返す」ような態度もする。手を「焼かない」子もいれば、手に「負えない」子もいる……とまあ、こんな調子で、それこそ手が空く間なしです。

ところが、そんなに忙しい手も、これを合わせるときだけは、人を超えた世界を念ずる祈りのしぐさとなります。それが合掌ですね。手を合わせることは、まず向き合う相手に対して無防備になることです。さらに自分の身と心を手に集中し、自分をまるごと相手に差し出すことを意味するでしょう。手を自分のものでなくするということですね。

自分のものでなくする手（合掌）は何を意味するのでしょうか。その合わせた手は、蓮のつぼみとなるんですね。両手の内側が少しふくらみ、中指の先が少しだけ空いている形を蓮華合掌といいます。

すが、それは仏の心がまさに開花しようとしている姿です。

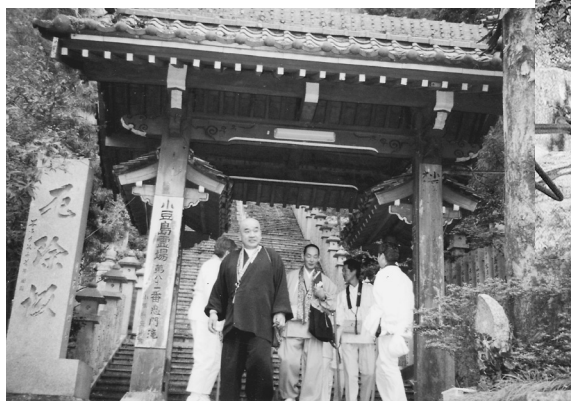
「合掌は蓮華のつぼみ」と言いましたが、拝むという「拝」は旧漢字で「拜」と書きます。「手」が手のそばにある形です。この手は、元は「華」（花のもの）と同じ形をあらわした字（象形文字）です。「拝」は、ヒトがひざまづいて手で華をつまむすがたを表しているということです。そうしますと、拝むことは花を捧げることであり、合掌して拝むことは、自分自身の蓮のつぼみ（仏性）を、仏さまに捧げることの意味するんですね。ところで、日本の踊り、またインド・中国・東南アジアの国々の舞踊や古典劇では、手のしぐさが大切な役割をはたしています。そのことと、仏像のさまざまな手の形とその美しさは関係があるように思います。

仏の世界もまた、手の形でさまざまに表現されています。それを印相^{いんさう}といいます。たとえば観音菩薩が左の手に、まだ開いてない蓮花を持ち、右の手を蓮のつぼみにかざしている姿があります。これは仏（悟り）が衆生（迷い）の内なる悟りを開かせようとしている働きを現わします。

手は、人の表情をあらわすとともに、それを通じて人間を超えた世界と交信する表現にもなるのです。



石鎚神社 頂上社へ

平成20年 7 月 6 日～7 月 7 日
霊峰石鎚山参拝にて（御山開き大祭）平成20年 4 月13日～4 月15日
小豆島巡拝にて

石鎚神社 鎮修行

十善の道

一 生命^{いのち}あるもの全てに悲^{あわれ}みの心を

（不殺生）

二 物だけでなく人の心も盗むまい

（不偷盗）

三 道ならぬ情欲に溺れず正しき愛を

（不邪淫）

四 正しい行いは実^{まこと}語から

（不妄語）

五 言葉を飾る人に誠実な人はいない

（不綺語）

六 人を悪^あし様に言わず愛語を

（不惡口）

七 二枚舌せず正直の頭^{こゝろ}に神宿る

（不両舌）

八 雨が土を潤すように物惜^{おし}みせず

（不慳貪）

九 瞋^{いか}りに心を晦^{くら}まさず己^{おのれ}を失わず

（不瞋恚）

十 仏法をよく明^{あき}らめ善に精進せん

（不邪見）

大師にまつわることわざ

「弘法にも筆の誤り」

弘法大師のような書の名人でも、書き損じることがある。その道に秀れた人でも時には失敗をすることがあるというたとえ。それについて次の逸話がある。

ある時、大師は嵯峨天皇の勅命により、大内裏にある「応天門」の額を書くようにいわれ、書き終えて額を門に掲げると、「応」の字の点を書き忘れていた。そこで大師は掲げられた額を降ろさせ筆を投げつけると、それは抜けていた点の部分に見事に命中し、「応」の字になったという。

「弘法筆を挾ばず」

お大師は、嵯峨天皇、橘逸勢とともに、「三筆」と呼ばれるほど書の名人だったが、それほどの書の達人は筆のよしあしを問題にしないという意味から、本当の名人は道具の良し悪しに関係なく、りっぱな仕事をすることになんと言われている。

「大師は弘法に取られ」

日本で、時の天皇より大師号を贈られた高僧は二十四人（真言宗が七人、天台宗が六人、真宗、曹洞宗、黄檗宗は各二人、浄土宗、臨済宗、融通念仏宗、時宗、日蓮宗は各一人）おられる。

しかし大師といえば弘法大師といわれるほど、ずばぬけてその知名度が高い。そのため大師の名を独り占めしているかのように印象づけられ、こんな諺ができた。

なむ大師しらぬも粥にありつけり 一茶

南無大師石手の寺よ稲の花

弘法の投筆かなに大文字

秋遍路大師の像に来て憩ふ

子規

子規

佐藤信子

バランスと加減

前の話に似たもので、塩の話があります。

昔、塩というものを全く知らない男がいた。ある人が、この男の食べている汁物に「これを少し入れるとおいしくなりますよ」と言って、塩をふりかけてやった。

男はそのおいしさにびっくりして、塩を分けてもらい、

「塩というものは、ほんの少し入れるだけで、あんなにおいしいのだから、それだけを食べてももっとうまいだろう」と考え、塩を一掴み口に入れてみたが、あまりの塩辛さに全部吐き出してしまった。

「どうして少しの方がおいしくて、多いとかえってまずいのだろう」男はいくら考えても分からなかったという。

この話は、いろいろなことを考えさせてくれます。

ものごとや、その在りようには全体を保つバランスというものがあり、全体の中のある部分がいかに大事に見えようとも、その部分だけを取り出してしまうと、その働きそのものを失ってしまう。

また肥満の人が痩せたいと

思って、食べなければやせる

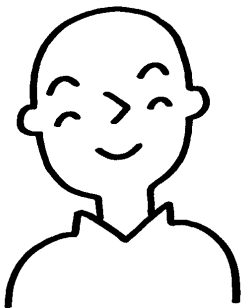
だろうと無理な減量をする、

かえって体をこわしてしまう

ように、ものごとには、加減

というものがあるのだというこ

とでしょうか。



へ…のようで…なのが十八条

冷たいようで 温かいのが 人の心

浅いようで 深いのが 心の傷

やりつくしたようで やり残したと思うのが 人生

やり残したようで 最後に納得するのが 人生

隠したつもりで 隠し通せないのが 嘘

低いようで 高いのが プライド

近いようで 遠いのが 故郷

小さいようで 大きいのが 欲

大きいようで 小さいのが 度量

強いようで 弱いのが 意志

簡単なようで 難しいのが 正直

しつこいようで あっさりしているのが 女

あっさりしているようで しつこいのが 男

うっとおしいようで 安心できるのが 親

励ましているようで 励まされてるのが 友

悲しいようで 嬉しいのが 娘の結婚

凡人であり 案外偉人なのが 母

凡人であり 実際凡人なのが 父

善き縁

夜が明けるときには、

太陽が顔を出すまえに、まず東の空が明るくなる。

やがてまばゆい光とともに太陽がのぼってくる。

そのように

善いことがある前には、善い兆しがある。

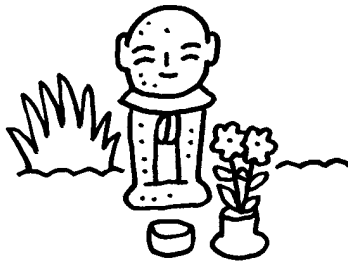
善い兆しを得るには

善き教えと縁を結ばねばならない。

善き師に出会い、善きことばを聞き、

善き集いのなかになれば、

善い兆しは、すでにあなたの顔を明るくしている。



○平成二十一年度 年間行事予定

一月一日～三日 修正会

二月三日 星祭(星供)

三月一日～二十三日 彼岸参り

三月八日 観音大祭(紫燈護摩)

三月二十日 彼岸法要

四月十二日～十四日 小豆島巡拝

七月五日～六日 石鎚山参拝

七月二十五日～八月十五日 盆参り

八月十五日 孟蘭盆会

八月二十三日 地藏祭・施餓鬼

九月一日～二十三日 彼岸参り

九月十八日 彼岸法要

十二月三十一日 年越祭

毎月十八日に月並観音供(内護摩)
十八日が祝日、日曜日の場合は、二十一日
に月並大師供(内護摩)を厳修
御詠歌講習会(月一～二回程度)

参加者募集

一、平成二十一年四月十二日(日)

～十四日(火)二泊三日

『小豆島巡拝』費用 三七、〇〇〇円

二、平成二十一年七月五日(日)

～六日(月)一泊二日

『石鎚山参拝』費用 三三、〇〇〇円

※お問い合わせ(正観寺)

〇八二―二八二―五六六二迄